

発言No.

7

受付No. 16

令和 4 年 2 月 15 日
10 時 45 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者
(○をつける)

(市長) 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

「石見の昭和」など浜田の懐かしい風景写真をみると、まちには賑わいがあり、祭りや地域が支えあい、さほど裕福でなくても職場旅行や家族旅行にも行けていた、ゆとりの暮らしの時代があった。子どもも多く若者も生き生きしていたが、今や若年層の人口比率は世界最低レベルにまで低下している。国が進めた地方創生、官から民への流れや規制緩和、行政改革の推進は、年功序列型賃金と終身雇用の崩壊と非正規・不安定雇用を拡大させ、若者に生きづらい社会を押し付け、少子化、過疎化を加速させたと思われる。脆弱な地域経済の下での貧困・格差がコロナ禍で顕在化しており、公助の取組こそ必要と考える。

1. 若者対策と協働のまちづくりについて

若者に安定した雇用とゆとりある働き方を保障することが結婚や出産、ひいては人口減少問題の解決につながると考える。

- ①市や外郭団体職員等、公的部門の正規雇用を増やすべきと考えるが市長の所見を伺う。
- ②ゆとりある人員配置を実現することで、自治会・町内会活動や消防団をはじめ、協働のまちづくりも進むのではないかと考えるが市長の所見を伺う。

2. 生活保護申請への対応状況について

セーフティネットの生活保護制度を、生活保護基準を下回る低所得世帯のうち2～4割しか利用していないといわれている。コロナ禍で生活困窮は深刻化しているにもかかわらず生活保護率は上がらない背景に、扶養照会が申請時の壁になっているといわれている。

- ①コロナ前と比較しての申請件数の変化について伺う。
- ②2021年3月30日付、生活保護の扶養照会に関する厚生労働省事務連絡の趣旨を踏まえた生活保護申請時の対応状況について伺う。

3. 鉄道路線の存続に対する考え方について

JR 米子支社の3月ダイヤ改正では大幅な減便となるが、利便性低下にとどまらず出雲市以西のJR山陰線の存続すら危ぶまれる状況にある。地域公共交通の根幹としての鉄道存続は地域の存亡につながりかねない重要課題であり、実効性ある取組が求められる。

- ①鉄道路線存続に対して様々な議論があるなかでの市長のとして現状認識を伺う。
- ②沿線首長との連携強化や国・県への働きかけなど今後の対応について伺う。